

たった2日間でしたが、香川県の希少淡水魚の調査・保全活動に同行し、研究会の方々からお話をうかがって、県内の希少淡水魚が置かれた状況を垣間見ることができました。ニッポンバラタナゴもカワバタモロコも、現在は保全池で何とか維持されていますが、外来種に置き換わったり、新たな場所での定着も難しかったり、生息地は減少傾向にあります。カジカの在来分布はごく狭い場所で、残された個体がやっと命をつないでいる状態でした。それぞれ関係者と協働して保全策に乗り出されていますが、厳しい状況が続いています。

また、上には書きませんでした。香川県産の淡水魚の中には、京阪神産の個体と形態が微妙に違うと感じるものもありました。違いはわずかだとしても、それは自然が長い年月をかけて生み出した多様性です。未来永劫、大切にすべきものです。

淡水魚の保全には、保全団体や地元の農家以外にも、自治体、大学、水族館・博物館などの繁殖を担う施設などの多面的な連携や協力が必要です。しかし、地方の自治体は財政面がより厳しく、また、地方には希少淡水魚の繁殖を担える公的研究所や博物館などの施設も乏しいです。地元の大学も少なく、協力が得られるような学部や専攻、先生方が近くにいても限りません。正しい知識を有する人的リソースも乏しいです。加えて、香川県では、現在活動が続ける香川淡水魚研究会には後継者の育成や確保が、ため池管理をされている農家には高齢化の問題もあり、盤石とは言えない状況にあります。活動の持続性や連携を妨げる課題があちこちにあると、このままでは、香川独自の環境が育んだ多様性のいくつか、近いうちに消滅してしまいそうです。この構造的な問題は、香川県だけに限らず、日本国内の特に地方における希少淡水魚保全がもつ共通のものだと思います。少しでも多くの方にこの状況を知ってもらい、考え、変化に繋がる契機になればと思って、今回記事にさせて頂きました。

改めて、今回貴重な機会を頂いた香川淡水魚研究会の皆さんに感謝申し上げます。保護保全に向けてこれまで重ねられた数々の努力、現在続けられている努力は、敬服の念に堪えません。

(※1) 香川淡水魚研究会：<https://kfish.sakura.ne.jp/>

(※2) 「たも網一本ではじめられる魚とり」、仲義輝、山と溪谷社、2022年

(参照) 雑魚の水辺「四国の淡水魚」：<http://zakonomizube.web.fc2.com/fish/jfish-anx.html>

(補足) ここで紹介する個体は全て香川県 希少野生生物保護推進員の指導の下、調査に同行し採捕・撮影させてもらったものです。

＜仲 義輝＞

☆お知らせ☆

★春の例会&総会「淀川左岸幹線水路 水生生物調査 春」を開催予定

日時：2024年4月7日(日) 9:00～11:30 例会

11:30～13:40 総会&講演会

場所：淀川左岸幹線水路&大阪府生物多様性センター(寝屋川市木屋元町10-4)

※詳細については、**当会ホームページのお知らせをご覧ください。**

URL：<http://mizube.gooside.com/>

★会報誌原稿募集中！！

会報誌の原稿を募集します。特に、今まで原稿を書いたことがない会員の皆様、是非とも積極的に投稿をお願い致します。

◎ 河川の水位の状況等によりイベントが中止になる可能性があります。

◎ 最新情報は、ホームページのお知らせのページをご覧ください。

☆☆会員の皆様へお願い☆☆

会活動の迅速な連絡のためにEメールやホームページを活用していきたいと思えます。

メールアドレスをお持ちでお知らせや活動の連絡をメールにて受けることが出来る方は、

会長(新城) Email:bzb05541@nifty.com までご連絡下さい。

★会報誌原稿はメールにて随時募集中です！！